

Japanese Laid-open Patent Publication No. 64-62799 laid open on March 9, 1989

Title of the Invention:

Emergency rescue system

Application No.: 62-221143 filed on September 3, 1987

Inventor(s): Naoshi Shirakura

Applicant(s): Rokuzaemon Yoshida et al.

Claim

An emergency rescue system, characterized by:
a portable emergency switch having a transmitter;
a device body having a receiver, a microphone and a speaker, wherein when the receiver receives a signal transmitted from the transmitter, the device body transfers a predetermined information to a predetermined location through a telephone line, wherein the device body is capable of mutual communicating by use of the microphone and the speaker through the telephone line; and
a central monitoring section connected to the device body through the telephone line, wherein the central monitoring section send a vehicle or a person to a location where the signal is transmitted.

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-62799

⑮ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月9日

G 08 B 25/02

A-8621-5C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 緊急救援システム

⑰ 特 願 昭62-221143

⑱ 出 願 昭62(1987)9月3日

⑲ 発 明 者 白 倉 直 士 新潟県新潟市白山浦1丁目312番地
⑲ 出 願 人 吉 田 六 左 エ 門 新潟県新潟市関屋田町1丁目48番地
⑲ 出 願 人 白 倉 直 士 新潟県新潟市白山浦1丁目312番地
⑲ 代 理 人 弁 理 士 牛 木 護

明 細 書

1. 発明の名称

緊急救援システム

2. 特許請求の範囲

発信機を有し携帯可能な非常スイッチと、前記発信機が発信した信号を受信機で受信したとき自動通話機能によって電話回線を通じて所定の場所へ所定の情報を伝達すると共に、拡音マイクとスピーカを用いて前記電話回線を通じて双方向的に通話可能な装置本体と、この装置本体と前記電話回線を通じて接続され、前記信号を発信した場所に車又は人を急行させる集中監視部とを備えたことを特徴とする緊急救援システム。

3. 発明の詳細な説明

[発明の目的]

(産業上の利用分野)

本発明は一人暮らしの老人等に異常事態が発生したときに救援するための緊急救援システムに関するものである。

(従来の技術)

近年、核家族化が進み、老人の一人暮らし等の単独生活者が多くなっており、周囲に共同生活者がいないために、急病にかかって動けない場合、助けを呼ぶことができず救援されない恐れがある。このため、従来は非常用の押しボタンを家屋内の各所に設置し、異常が起きたときにボタンを押すと自動的に電話回線を通じて必要な情報を予め決めた場所へ通報するシステムが開発され、家屋内のどの場所においても直ちに救助依頼、通報等が可能となり、単独生活者の急病等の異常事態を通報できるものであり、例えば実開昭59-63794号公報に開示されている。

(発明が解決しようとする問題点)

この異常事態が通報される相手先としては通常かかり付けの医者、民生委員、隣組等で

あるが、これらの相手先は外出することも多く24時間体制で通報を受けて直ぐに救援にかけつけることができるとは限らず、そのため、長い間病人が放置される恐れがあると言う問題点がある。また、通報は一人暮らしの老人等から一方的にきて予め記録された情報のみ通報されるため、この老人がどんな状況にあるのか、どんな異常事態が発生したかを、知ることができないと共に、救援者がかけつけるまでの間、急病人は不安な時間を過ごさなければならぬと言う問題点があった。

本発明は前記問題点に基づいて成されたものであり、異常事態が発生した単独生活者等を24時間体制で救援できると共に、確実に異常事態の状況を把握することのできる緊急救援システムを提供することを目的とするものである。

〔発明の構成〕

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は発信機を有し携帯可能な非常スイ

ッチとする。第1図は本発明のシステム図であり、1は一人暮らしの老人等の緊急救援システムを必要とする使用者の家屋、2は使用者が首にかけたりして携帯可能なペンダント型の非常スイッチである。3は電話機であり、この電話機3には非常スイッチ2が操作された時に所定の通報先に自動的に電話回線4を通じて電話をかけて、双方向的に通話可能となる装置本体5が接続されている。6は前記所定の通報先である集中監視部であり、例えば24時間常駐しているタクシー7の配車センター等を利用できる。この集中監視部6は緊急通報を受けるとAVM装置により近くを走行している空車のタクシー7を使用者の家屋1に救援に向かわせ、ドライバーは状況に応じて病人を車で病院8に運んだり、あるいは集中監視部6に無線により状況を知らせ、集中監視部6は病院8、警察9、消防署10等に連絡して出動を依頼する。

第2図はブロック図を示しており、前記非

ッチと、前記発信機が発信した信号を受信機で受信したとき自動通話機能によって電話回線を通じて所定の場所へ所定の情報を伝達すると共に、集音マイクとスピーカを用いて前記電話回線を通じて双方向的に通話可能な装置本体と、この装置本体と前記電話回線を通じて接続され、前記信号を発信した場所に車又は人を急行させる集中監視部とを備えたものである。

〔作用〕

単独生活者等が助けに来てもらいたいときに非常スイッチを押すと自動的に電話回線が集中監視部に接続され、所定の情報が先ず通報されると共に、スピーカや集音マイクを通じてお互いに話し合うことができ、異常事態の状況が集中監視部に把握され、かつ集中監視部は車や人を現場に急行させて救援を行わせることができる。

〔実施例〕

以下、図面に基づいて本発明の一実施例を

常スイッチ2は発信機11を内蔵し、使用者が非常スイッチ2を操作したときに信号を発信する。装置本体5は既存の電話機3に接続可能であり、前記信号を受信する受信機12と、信号を受信したときに、集中監視部6へ自動通報し、予め記憶されている発信元の電話番号等の情報を音声出力する自動通話機能13と、集音マイク14と、スピーカ15とを備えている。尚、家屋1には火災センサ16を設置してこの火災センサ16からの信号を受信機12で受信させることもできる。集中監視部6は電話機17と、発信元の電話番号から住所、氏名、地区、かかり付けの医者等の情報を抽出してCRT等で表示させるマイクロコンピュータ18と、空車のタクシーの位置を把握するAVM装置19と、タクシーと交信する無線装置20とを備えている。タクシー7は集中監視部6と交信する無線装置21を備えている。

以上のように構成される本発明システムの動作を説明する。一人暮らしの老人等の使用者

が突然気分が悪くなって首に吊り下げた非常スイッチ2のボタンを押すと、発信機11から信号が発信する。家庭1に設置されている装置本体5は受信機12でこの信号を受信すると自動通話機能13により予め登録されている集中監視部6へ自動的に回線を接続し、予め記憶されているこの使用者の電話番号や「助けて下さい」等の情報を音声合成により出力する。集中監視部6は電話器17からこの情報を聞き、電話番号をマイクロコンピュータ18に入力すると、CRT等により相手先(使用者)の氏名、住所、道順等の情報が表示される。そして、集中監視部6はAVM装置19により、相手先の付近を走行している空車のタクシー7を見つけ、このタクシー7に無線で住所、道順等を教えて使用者の家へ救護に行かせる。電話回線は前記情報を伝えた後、しばらくの間そのまま接続されているため、集中監視部6が「どうしましたか」等と具合を問うとスピーカ15により報告され、使

用者は電話器3を取れなくて例れたままでもこの声を聞き、具合の状況などをそのまま言えば集音マイク14を介して集中監視部6へ伝えられ双方向的に通話が可能となる。従って、タクシー7が現場につくまでの間、使用者を助ましたり、あるいはどんな異常が発生したかを正確に知ることができ、必要に応じて病院8や警察9等に通報できると共に、使用者が間違えて非常スイッチ2を操作すればそれがわかる。現場に駆けつけたタクシー7のドライバーは使用者を状況に応じてタクシー7に乗せて病院8へ急行したり、あるいは警察9や消防署10に連絡したりする。タクシー7は通常24時間体制で配車の営業活動をしており、地域の至る所を走行しているため、無線により知らせれば直ぐに現場に急行できるものであり、仮に空車がない場合には他のタクシー会社に連絡したり、あるいは緊急車両とパトロール要員を急行させることもできる。また、使用者が病気でなく、例えば押し売り

等が来て、助けを求めた場合にも自動的に集中監視部6へ電話が接続され、集中監視部6からの声で応答したり、タクシー7のドライバーが助けに行くこともできる。さらに、集中監視部6はCRTで表示されたこの使用者に対する親類等の緊急連絡先にも連絡する。

以上、本発明の一実施例について詳述したが、本発明の要旨の範囲内で適宜変形できる。例えば、前記実施例は集中監視部6としてタクシー会社を利用したが、他に適やかに現場へ車両又は人を救護に行かせることができればこれに限定されない。また、このシステムの使用者は一人暮らしの老人に限定されず、このような緊急救護システムを利用したい人なら誰でも利用できる。

[発明の効果]

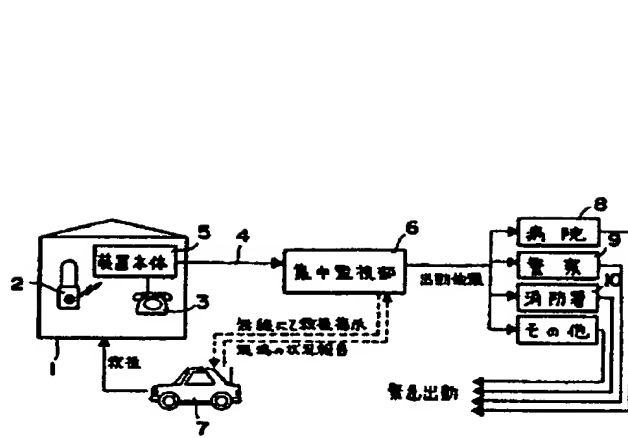
以上詳述したように本発明によれば発信機を有し携帯可能な非常スイッチと、前記発信機が発信した信号を受信機で受信したとき自動通話機能によって電話回線を通じて所定の

場所へ所定の情報を伝達すると共に、集音マイクとスピーカを用いて前記電話回線を通じて双方向的に通話可能な装置本体と、この装置本体と前記電話回線を通じて接続され、前記信号を発信した場所に車又は人を急行させる集中監視部とを備えたことにより、異常事態が発生した単独生活者等を24時間体制で救護できると共に、随時に異常事態の状況を把握することのできる緊急救護システムを提供することができる。

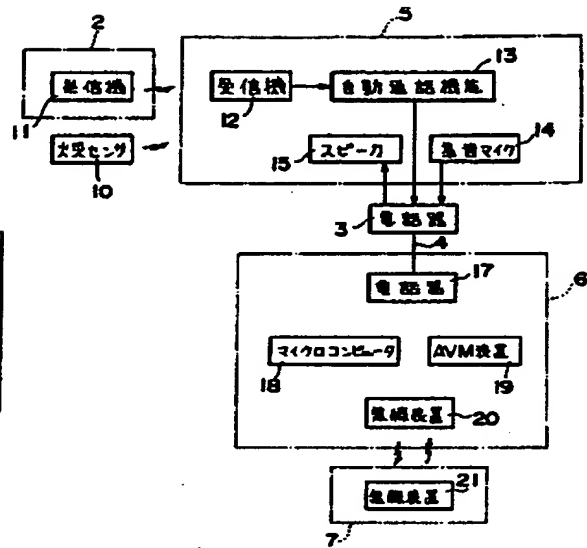
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示すシステム図、第2図は同ブロック図である。

- | | |
|-----------|----------|
| 2…非常スイッチ | 4…電話回線 |
| 5…装置本体 | 6…集中監視部 |
| 11…発信機 | 12…受信機 |
| 13…自動通話機能 | 14…集音マイク |
| 15…スピーカ | |



第 1 図



第 2 図